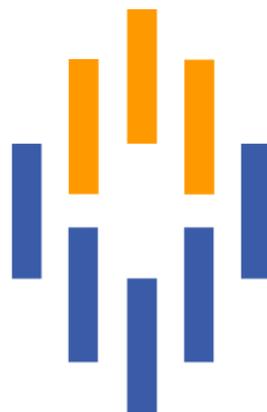


教育研究開発(FD)

— 学生による授業評価アンケート 結果と授業改善 —

2022



TOKYO SEITOKU
COLLEGE

東京成徳短期大学

2022年度 学生による授業評価アンケート 結果と授業改善

目次

はじめに	3
【1】「学生による授業評価アンケート -より良い授業を目指して-」趣旨と目的 ...	4
【2】実施の方法	4
資料1「授業アンケートの依頼と実施方法」	5
資料2「授業アンケート用紙」	9
資料3「結果コメント依頼」	11
【3】集計結果と考察・授業改善コメントの方法	13
(1) 学科全体の集計結果<結果の表とグラフ>	14
(2) 各科目の集計結果と考察・授業改善コメント <各科目の結果の表・グラフと教員コメント>	17
【4】アンケート結果の分析と評価	144
おわりに	148
索引	150

はじめに

この「学生による授業評価アンケート」は数回の改編を重ね、現在の学習成果を軸とし授業構成要素を分析し、より良い授業への改善が見通せる形となった。従来は「学生満足度」を軸とするアンケートを行っていたが、これを「学修成果（修得・向上できたもの）」を軸とするものへと改編を行い、学習の成果と授業構成要素への回答との関連性を比較・検討することによって、より良い授業（学修成果が上がる授業）への改善の方向性を明らかにしようとするものである。

また、科目ごとに設定した授業の工夫について「教員設定質問」を設け、教員自らが質問項目を設定する仕組みを用いた。教員それぞれが授業に関するアセスメントを検討することは、より良い授業を目指すために重要な姿勢の一つであると考えられる。

本学の授業評価アンケートでは、単に授業の良し悪しを数字で可視化するのではなく、そこからどのような改善を見通すことが出来るか、授業を行う教員も、また授業を受ける学生も意識化することを重視した仕組みとしている。

このようにして積み重ねられてきた「授業評価アンケート—より良い授業を目指して」であるが、重要なのはその中で見えてきた問題の方向に対して、どう具体的改善を行い、その結果どのような効果を見出すことができたかである。今年もアンケート結果への教員コメントにはそうした授業改善とその結果についての考察を求め、集約した。この改善の効果についての情報を公開し共有することで、さらなる授業改良の方向を探るきっかけになることを期待したい。

【1】「学生による授業評価アンケート -より良い授業を目指して-」趣旨と目的
「東京成徳短期大学 学生による授業評価実施規程」より
(趣旨)

第1条 この規程は、東京成徳短期大学教育開発研究専門委員会規程第2条の規程に基づき、本学の教育開発研究活動等の一環として行う学生による授業評価（以下授業評価という。）の実施と運営について必要な事項を定める。

(授業評価の目的)

第2条 本学が開設する授業科目について学生による評価を行い、その結果を教員が共有し授業改善に役立てるとともに、ファカルティ・ディベロップメント活動を促進し、本学の教育開発研究活動を推進し、教育の質の向上に資することを目的とする。

【2】 実施の方法

WEB 回答方式により実施した。企画・IR 室が各科目担当教員にアンケート回答用 QR コード及び URL データを送り、教員は指定の期間内(概ね授業終了までの1ヶ月間)にそれぞれの授業で学生に回答を求めた。学生の回答はそのまま企画・IR 室を経由してデータ処理業者に届き、各科目単位で集計された。また、教員には授業内で回答を促すなど回答率が高まるような学生への周知・指示を依頼した。教員は指定の期間内(概ね授業終了までの1ヶ月間)にそれぞれの授業でアンケートを実施し、回答は学生がそれぞれ WEB 上で送信する形とした。回答はそのまま企画・IR 室を経由してデータ処理業者に届き、各科目単位で集計された。

本アンケートは、選択回答と記述部分とからなり、質問には共通質問と各教員による設定質問とがある。学習成果に対する質問を設け、学生自身がその授業を履修することによって考え方や知識・技能といった学修成果がどの程度得られたかを自己評価させている。自由記述部分は授業構成要素（授業方法、進度、教科書・教材、板書・資料提示、学生への対応）について、評価する点、改善を求める点それぞれを学生に自由に記述させ、単なる感想ではなく、より良い授業につながる学生の声を求めるものとした。

全授業、全クラスでの実施を前提とすることから、学生への負担意識の軽減、惰性による作業的回答を避けるため、問題を極力厳選しアンケートの数を減らしたものになっている。

今回は WEB 回答形式を採用したことで、学生それぞれが自由な、都合の良い時間に回答することもできる形となり、より学生の自由意思が反映されるアンケートとなった。

資料1 「授業アンケートの依頼と実施方法」

短期大学 専任教員・非常勤講師 各位

2022年6月8日

東京成徳短期大学教務委員会

FD委員会

学生授業評価アンケートの実施のお願い <前期科目>

2022年度前期「授業アンケートより良い授業を目指して」を次の要領で実施いたします。

このアンケートは、本学の教育がどのように学生に理解され、どのような教育効果を生んでいるかを把握し、より良い授業に向け教育開発研究を推進することを目的とします。また学生には、授業がどのような目的・ねらいに基づいて行われていたか再確認を促し、より高い学修成果を生むことを期待するものです。教員・学生双方が授業アンケートのねらいを共有し、教員は、常にその目標達成のためにどのような教授方法が効果的であるかを探求する姿勢を持つこと、これがより質の高い授業の実現につながるものと考えます。

今回もアンケートは Web 回答方式を用います。ここ数回での回答率が低い状況なのでできるだけ学生が回答するように授業時間内で回答をお願いしたいと思います。

アンケートのねらい・方法をご理解いただき、何卒ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

【実施方法】

- ① 問8「教員設定質問」について、各教員はそれぞれの授業で特に学生に問いかけたい内容の質問を設定してください。(回答欄は既定の選択肢が使えるよう、設問の設定をお願いします。)

■教員設定質問の報告

教員設定質問は事前に下記サイトに入力してください。6月23日まで

<https://forms.office.com/r/vSKaabzDHw>

URL は@tsc.ac.jp のメールアドレスにお送りしています。

期限までに入力ない場合は昨年度のご担当科目から質問を設定いたします。

企画・IR室 (ir@tsu.ac.jp)



- ② 学生にアンケート回答用 QR コードもしくは URL (後日お知らせ) を通知し、そこから回答するよう周知・指示をお願いします。
- ③ 対面授業内でアンケートへの回答を促す等、回答率が高まるよう周知・指示をお願いします。
(回答はスマホから、また授業時間外でも可能)
- ④ 問5、問6の記述回答では、授業改善の方向性が読み取れる重要な情報となりますので、必ず記述するよう声かけをお願いします。

【実施期間】 7月4日(月) から8月4日(木)

授業計画との関係で適当な日をお選びください。なお、アンケートの回収率が高くなるよう、できるだけ授業時間に回答できるようご配慮をお願いします。(回答は授業時間外でも可能です)

授業アンケート集計結果は9月中旬頃にお届けいたします。その後、授業に関するPDCAの一環として、それぞれの担当授業のアンケート結果を考察の上、『評価と授業改善について』のコメントのご提出をお願いいたします。

【アンケートの内容】

『 授業アンケート — より良い授業を目指して 』

<共通質問>

問1：あなたはこの授業の目的を理解して受講したと思いますか。

(5 そう思う 4 ややそう思う 3 どちらとも言えない 2 あまりそう思わない 1 そう思わない)

問2：あなたはこの授業に対して真剣に取り組みましたか。(事前学習など自主的学習を含む)

(5 真剣だった 4 わりと真剣だった 3 どちらとも言えない 2 あまり真剣ではなかった 1 真剣ではなかった)

問3：あなたはこの授業の内容を理解できたと思いますか。

(5 理解できた 4 わりと理解できた 3 どちらとも言えない 2 あまり理解できなかった 1 理解できなかった)

問4：この授業であなたが向上・修得できたと思われるものを次の中から複数選択してください。

- (ア) 教養・美しい心
- (イ) 専門的知識・技能
- (ウ) 研究意欲
- (エ) 保育や子どもに関わる実践力・即応力
- (オ) 保育者に求められるコミュニケーション能力
- (カ) 学びを深めるための協同的課題解決能力
- (キ) 社会的な責任感や倫理観
- (ク) 目的に向かう意欲・行動力

問5：この授業について、①授業の方法(オンラインを含む)・授業進度、②教科書・教材・資料について、③教員の話し方・学生への対応など、良かった点を書いてください。

【記述回答】

問6：この授業について、①授業の方法(オンラインを含む)・授業進度、②教科書・教材・資料について、③教員の話し方・学生への対応など、改善してほしい点を書いてください。

【記述回答】

問7：この授業を履修して、幼児教育科の専門分野での考え方や知識、技能が身につきましたか。

(5 身についた 4 わりと身についた 3 どちらとも言えない 2 あまり身につかなかった 1 身につかなかった)

<教員設定質問>

問8： 質問は事前に設定し企画・IR 室までお知らせ下さい。

(5： そう思う 4： ややそう思う 3： どちらともいえない 2： あまり思わない 1： そう思わない)

学生授業評価アンケートの実施のお願い <後期・通年科目>

2022年度前期にはアンケートのご協力ありがとうございました。引き続き後期「授業アンケートより良い授業を目指して」を次の要領で実施いたします。

このアンケートは、本学の教育がどのように学生に理解され、どのような教育効果を生んでいるかを把握し、より良い授業に向け教育開発研究を推進することを目的とします。また学生には、授業がどのような目的・ねらいに基づいて行われていたか再確認を促し、より高い学修成果を生むことを期待するものです。教員・学生双方が授業アンケートのねらいを共有し、教員は、常にその目標達成のためにどのような教授方法が効果的であるかを探求する姿勢を持つこと、これがより質の高い授業の実現につながるものと考えます。

今回もアンケートは Web 回答方式を用います。ここ数回での回答率が低い状況なのでできるだけ学生が回答するように授業時間内で回答をお願いしたいと思います。

アンケートのねらい・方法をご理解いただき、何卒ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

【実施方法】

- ① 問8「教員設定質問」について、各教員はそれぞれの授業で特に学生に問いかけたい内容の質問を設定してください。(回答欄は既定の選択肢が使えるよう、設問の設定をお願いします。)

■教員設定質問の報告

教員設定質問は事前に下記サイトに入力してください。12月10日まで

<https://forms.office.com/r/vSKaabzDHw>

URLは ir@tsc.ac.jp のメールアドレスからお送りしています。

期限までに入力ない場合は昨年度のご担当科目から質問を設定いたします。

企画・IR室 (ir@tsu.ac.jp)



- ② 学生にアンケート回答用 QR コードもしくは URL (後日お知らせ) を通知し、そこから回答するよう周知・指示をお願いします。
- ③ 対面授業内でアンケートへの回答を促す等、回答率が高まるよう周知・指示をお願いします。
(回答はスマホから、また授業時間外でも可能)
- ④ 問5、問6の記述回答では、授業改善の方向性が読み取れる重要な情報となりますので、必ず記述するよう声かけをお願いします。

【実施期間】 12月19日(月)から1月27日(金)

授業計画との関係で適当な日をお選びください。なお、アンケートの回収率が高くなるよう、できるだけ授業時間に回答できるようご配慮をお願いします。(回答は授業時間外でも可能です)

授業アンケート集計結果は2月中旬頃にお届けいたします。その後、授業に関するPDCAの一環として、それぞれの担当授業のアンケート結果を考察の上、『評価と授業改善について』のコメントのご提出をお願いいたします。

【アンケートの内容】

『 授業アンケート — より良い授業を目指して 』

<共通質問>

問1：あなたはこの授業の目的を理解して受講したと思いますか。

(5 そう思う 4 ややそう思う 3 どちらとも言えない 2 あまりそう思わない 1 そう思わない)

問2：あなたはこの授業に対して真剣に取り組みましたか。(事前学習など自主的学習を含む)

(5 真剣だった 4 わりと真剣だった 3 どちらとも言えない 2 あまり真剣ではなかった 1 真剣ではなかった)

問3：あなたはこの授業の内容を理解できたと思いますか。

(5 理解できた 4 わりと理解できた 3 どちらとも言えない 2 あまり理解できなかった 1 理解できなかった)

問4：この授業であなたが向上・修得できたと思われるものを次の中から複数選択してください。

- (ア) 教養・美しい心
- (イ) 専門的知識・技能
- (ウ) 研究意欲
- (エ) 保育や子どもに関わる実践力・即応力
- (オ) 保育者に求められるコミュニケーション能力
- (カ) 学びを深めるための協同的課題解決能力
- (キ) 社会的な責任感や倫理観
- (ク) 目的に向かう意欲・行動力

問5：この授業について、①授業の方法(オンラインを含む)・授業進度、②教科書・教材・資料について、③教員の話し方・学生への対応など、良かった点を書いてください。

【記述回答】

問6：この授業について、①授業の方法(オンラインを含む)・授業進度、②教科書・教材・資料について、③教員の話し方・学生への対応など、改善してほしい点を書いてください。

【記述回答】

問7：この授業を履修して、幼児教育科の専門分野での考え方や知識、技能が身につきましたか。

(5 身についた 4 わりと身についた 3 どちらとも言えない 2 あまり身につかなかった 1 身につかなかった)

<教員設定質問>

問8： 質問は事前に設定し企画・IR 室までお知らせ下さい。

(5： そう思う 4： ややそう思う 3： どちらともいえない 2： あまり思わない 1： そう思わない)

資料2 「授業アンケート用紙」

設問 1

単一選択 必須

あなたはこの授業の目的を理解して受講したと思いますか。

- 5 そう思う
- 4 ややそう思う
- 3 どちらとも言えない
- 2 あまりそう思わない
- 1 そう思わない

設問 2

単一選択 必須

あなたはこの授業に対して真剣に取り組みましたか。（事前学習など自主的学習を含む）

- 5 真剣だった
- 4 わりと真剣だった
- 3 どちらとも言えない
- 2 あまり真剣ではなかった
- 1 真剣ではなかった

設問 3

単一選択 必須

あなたはこの授業の内容を理解できたと思いますか。

- 5 理解できた
- 4 わりと理解できた
- 3 どちらとも言えない
- 2 あまり理解できなかった
- 1 理解できなかった

設問 4

複数選択 必須 1-8個選択

この授業であなたが向上・修得できたと思われるものを次の中から複数選択してください。

- (ア) 教養、美しい心
- (イ) 専門的知識・技能
- (ウ) 研究意欲
- (エ) 保育や子どもに関わる実践力・即応力
- (オ) 保育者に求められるコミュニケーション能力
- (カ) 学びを深めるための協同的課題解決能力
- (キ) 社会的な責任感や倫理観
- (ク) 目的に向かう意欲・行動力

設問 5

自由記述 1,400文字入力

この授業について、①授業の方法（オンラインを含む）・授業進度、②教科書・教材・資料について、③教員の話し方・学生への対応など、良かった点を書いてください。【記述回答】

0 / 400 文字

設問 6

自由記述 1,400文字入力

この授業について、①授業の方法（オンラインを含む）・授業進度、②教科書・教材・資料について、③教員の話し方・学生への対応など、改善してほしい点を書いてください。【記述回答】

0 / 400 文字

設問 7

単一選択 必須

この授業を履修して、幼児教育科の専門分野での考え方や知識、技能が身につきましたか。

- 5 身についた
- 4 わりと身についた
- 3 どちらとも言えない
- 2 あまり身につかなかった
- 1 身につかなかった

設問 8

単一選択 必須

貴方は、フィールドワークを通して、幼児への理解と教師の役割を学ぶことが出来ましたか。

- 5 そう思う
- 4 ややそう思う
- 3 どちらとも言えない
- 2 あまりそう思わない
- 1 そう思わない

[アンケートに回答する](#)

2022年9月26日

東京成徳短期大学 授業担当教員 各位

東京成徳短期大学教務委員会
FD委員会

「授業評価アンケートより良い授業を目指して」
集計結果の通知及び、結果のコメント・授業改善成果について（依頼）

2022年度前期「授業アンケート集計結果」をお届けいたします。「授業アンケートより良い授業を目指して」にご協力いただきましたこと、お礼申し上げます。

このアンケートは、より高い学習成果を目指して、授業の構成要素が学生にどのように評価され、効果を生んでいるかを検証し、またそれぞれの教員がどのような方針で授業を行い、その効果を確認することができたかを、担当教員の設定質問から明らかにしながら、より良い授業に向けた改善方法の一端を探ることを狙いとするものです。

アンケート結果の集計方法としては、学生の知識・技能の修得度(学びの成果)と、授業構成要素の評価、そして教員設定質問の回答とを相関させ、クロスでの集計を行いました。どのような授業方法が、より高い学びの成果を上げることができるか、学習成果を感じている学生はどのような授業要素を評価し、成果を感じない学生は何の評価が低いのか、自由記述に関しても学びの成果別に考察頂ければと思います。この考察についてのコメントを、forms「授業評価アンケート結果コメント」の「①授業アンケート結果について」にご記入してください。また、継続的に同じ科目(または同等の科目)をご担当の先生は、過去の結果に対する本年度の改善成果について「②授業改善とその成果について」にコメントいただきますようお願い致します。

ここでのコメントを集約し、それぞれの取り組みでどんな成果を上げることができたか、考察の結果を公表し、それらを参考に東京成徳短期大学全体で教育開発研究・授業改善を進め、より魅力ある質の高い授業を目指したいと思います。

コメントは企画・IR室(ir@tsu.ac.jp)より授業アンケート結果と合わせてforms「授業アンケート結果コメント」をお送りいたしますので、10月31日(月)までにご記入・送信お願いいたします。

皆さまの御理解と御協力、どうぞよろしくお願い申し上げます。

forms「授業評価アンケート結果コメント及び授業改善について」

<https://forms.office.com/r/UU3HA6g6Rb>

- 1.お名前、科目名を選択してください
- 2.アンケート結果(教員設定質問も含め)について <300字程度>
- 3.授業改善とその成果について <300字程度>

■提出期限 2022年10月31日(月)

(提出・問い合わせ先)

東京成徳短期大学 企画・IR室(担当:内田)

E-mail. ir@tsu.ac.jp

東京成徳短期大学
教務委員会 FD委員会
事務担当・企画 IR室

「授業評価アンケートより良い授業を目指して」

集計結果の通知及び、結果のコメント・授業改善成果について (依頼)

2022年度後期「授業アンケートより良い授業を目指して」にご協力いただきありがとうございました。この度「授業アンケート集計結果」をお届けいたします。

このアンケートは、より高い学習成果を目指して、授業の構成要素が学生にどのように評価され、効果を生んでいるかを検証し、またそれぞれの教員がどのような方針で授業を行い、その効果を確認することができたかを、担当教員の設定質問から明らかにしながら、より良い授業に向けた改善方法の一端を探ることを狙いとするものです。

アンケート結果の集計方法としては、学生の知識・技能の修得度(学びの成果)と、授業構成要素の評価、そして教員設定質問の回答とを相関させ、クロスでの集計を行いました。どのような授業方法が、より高い学びの成果を上げることができるか、学習成果を感じている学生はどのような授業要素を評価し、成果を感じない学生は何の評価が低いのか、自由記述に関しても学びの成果別に考察頂ければと思います。この考察についてのコメントを、別送 forms「授業評価アンケート結果コメント」の「1-①授業アンケート結果について」にご記入してください。また、継続的に同じ科目(または同等の科目)をご担当の先生は、過去の結果に対する本年度の改善成果について「1-②授業改善とその成果」にコメントいただきますようお願い致します。

ここでのコメントを集約し、それぞれの取り組みでどんな成果を上げることができたか、考察の結果を公表し、それらを参考に東京成徳短期大学全体で教育開発研究・授業改善を進め、より魅力ある質の高い授業を目指したいと思います。

コメントは企画・IR室(ir@tsu.ac.jp)より授業アンケート結果と合わせて forms「授業アンケート結果コメント」をお送りいたしますので、2月28日(月)までにご記入・送信お願いいたします。

皆さまの御理解と御協力、どうぞよろしくお願い申し上げます。

* forms「授業評価アンケート結果コメント及び授業改善について」*

<https://forms.office.com/r/SXLkq8c3Ws>

- 1.お名前、科目名を選択してください
- 2.アンケート結果(教員設定質問も含め)について <300字程度>
- 3.授業改善とその成果について <300字程度>

■提出期限 2023年3月31日(金)

(提出・問い合わせ先)

東京成徳短期大学 企画・IR室(担当:内田)

E-mail. ir@tsu.ac.jp

TEL. 03-3908-4563 / FAX. 03-3907-6195

【3】 集計結果と考察・授業改善コメントの方法

集計されたアンケート結果は、各教員に通知され、その結果から読み取った内容と授業改善についてのコメントを作成した。アンケートの結果の集計に際しては、学習成果の高低（「5」の回答と「4」の回答、「3 2 1」の回答）と授業要素「授業目的の理解」「学習の意欲・姿勢」「授業内容の理解」とをクロス集計表及びグラフによって表示し、学習成果をあげる授業要素について考察できる形としている。また、自由記述に関しても、評価できる点、改善を求める点について、学生の学習成果との関連で読み解くことができ、学習成果の評価が低い学生は、どのような改善点を求めているか、そのことによって一つの授業改善の方向が見通せるものと考えられる。

また、これまでの授業改善の結果として効果が認められた点のコメントの記載も依頼している。授業アンケートの結果のコメントと授業改善について、経年実施の成果として認められるものがあるならば、そこについて公表・情報共有し、お互いの授業改善に向けた一つの動きになることを期待したい。

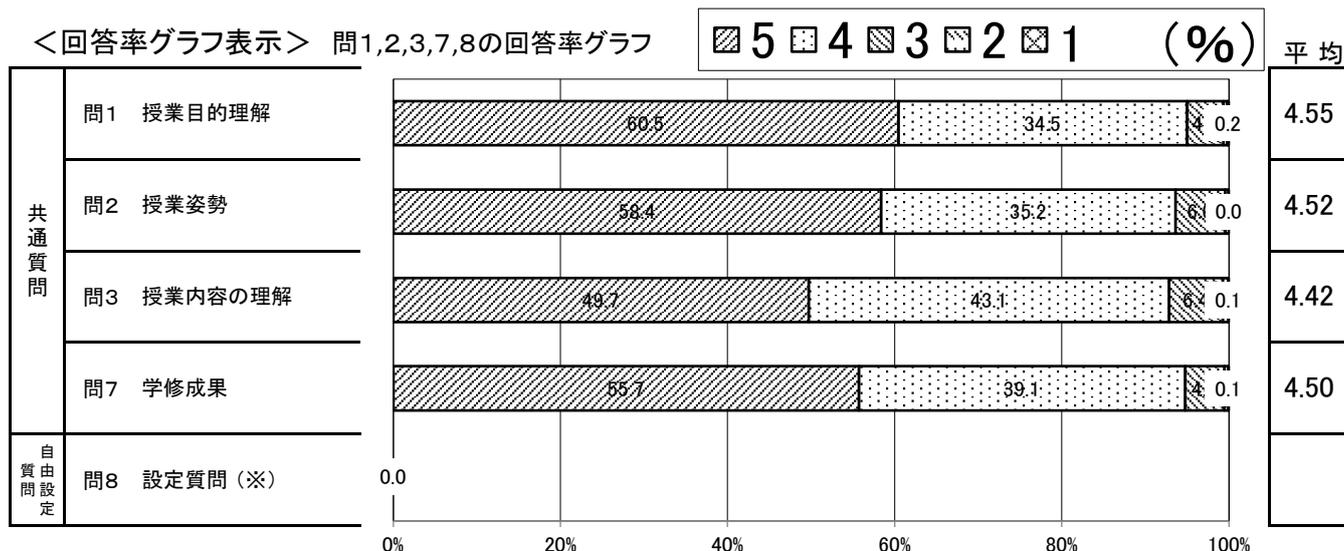
(1) 学科全体の集計結果

<結果の表とグラフ>

科目コード：
 授業科目名：全体
 担当教員名：

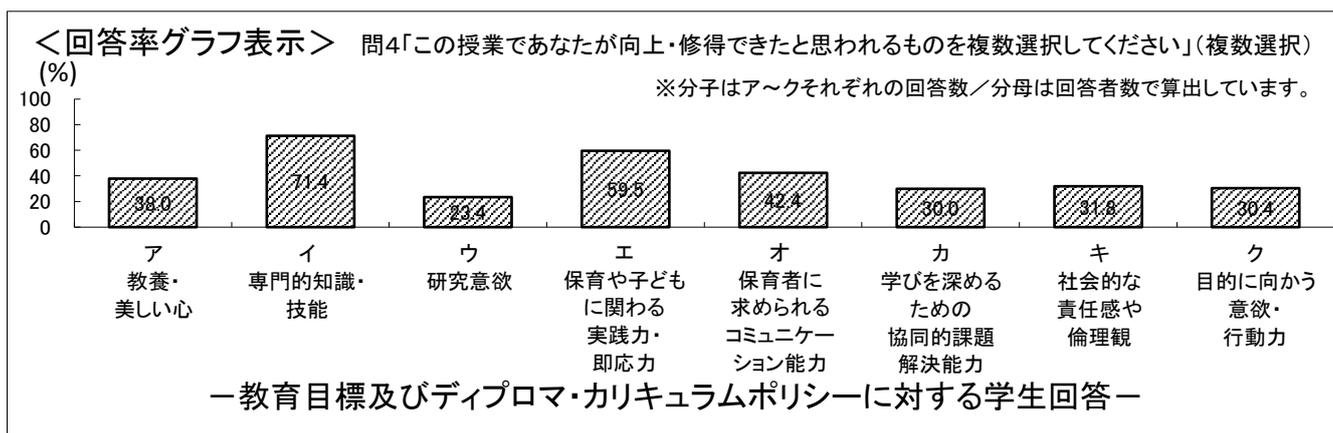
2022年度 前期
 履修者数：2988名
 回答者数：1882名

<回答率グラフ表示> 問1,2,3,7,8の回答率グラフ



※ 設定質問なし

問5・問6(記述回答)「授業(オンラインを含む)・教材資料提示・学生対応等について」は別記配布



《担当教員のコメント》

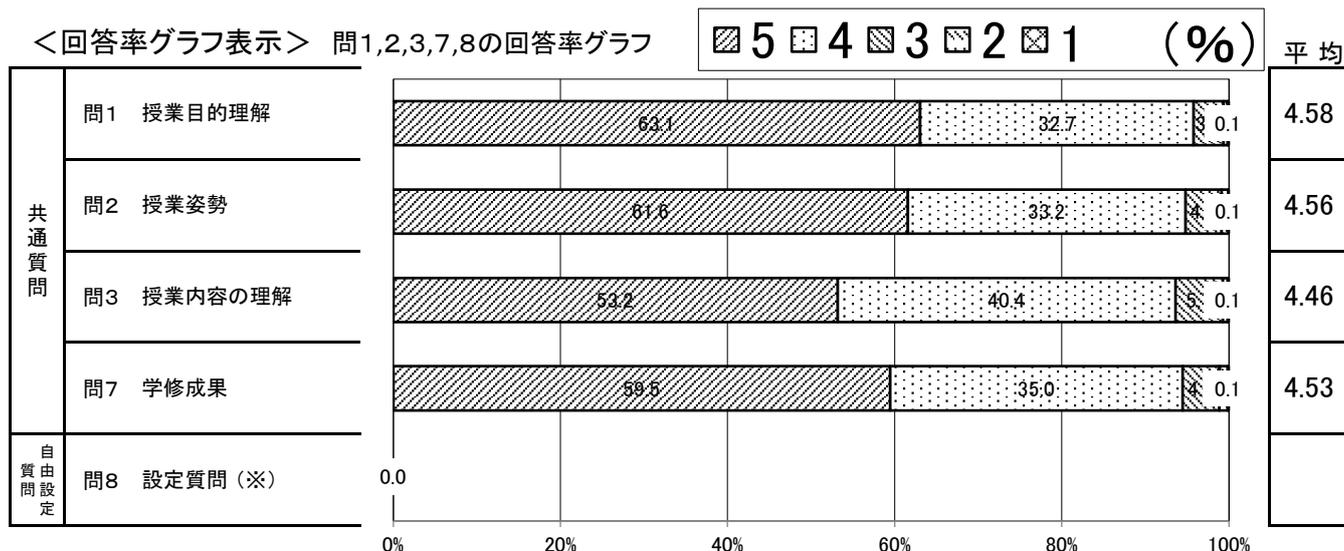
【授業アンケート結果(問7学修成果とのクロス集計、教員設定質問を含め)へのコメント】

【授業改善—授業アンケートを受けて】

科目コード：
 授業科目名：全体
 担当教員名：

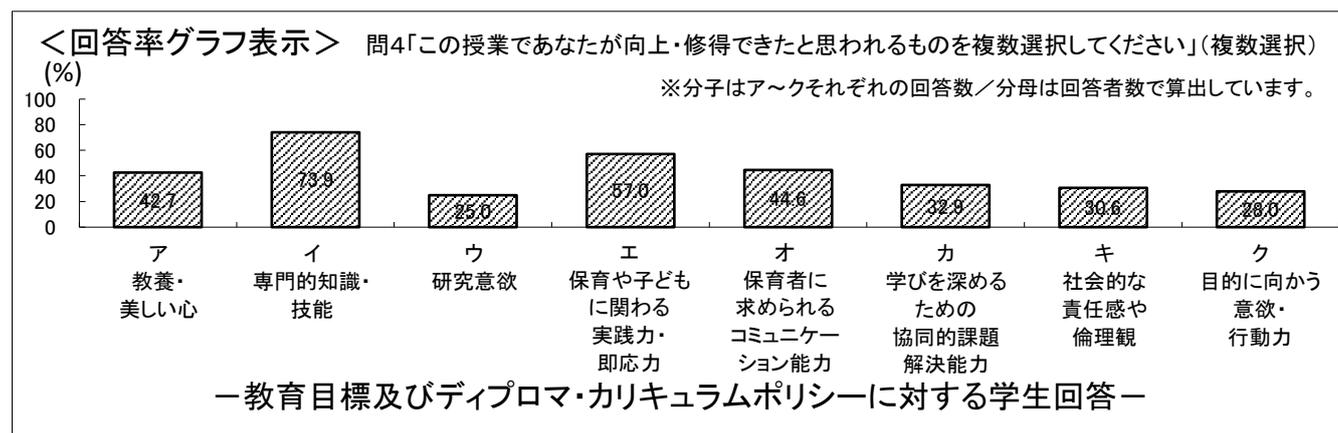
2022年度 後期
 履修者数：2783名
 回答者数：1427名

<回答率グラフ表示> 問1,2,3,7,8の回答率グラフ



※ 設定質問なし

問5・問6(記述回答)「授業(オンラインを含む)・教材資料提示・学生対応等について」は別記配布



《担当教員のコメント》

【授業アンケート結果(問7学修成果とのクロス集計、教員設定質問を含め)へのコメント】

【授業改善—授業アンケートを受けて】

(2) 各科目の集計結果と考察・授業改善コメント

<各科目の結果の表・グラフと教員コメント>

【4】 アンケート結果の分析と評価

本アンケートは、全科目、全教員での実施を基本としている。2022年度のアンケート対象者（履修者数）は、5,771名（前期・後期）であった。うち回答者数は、3,309名で、回答率は、57.3%であった。

本学における該当科目、該当教員のすべてにおいてアンケートを実施した。本年はWEBアンケートとして、学生による回答は、ネットを通じて学外の委託業者に送られ、集計が行われた後、企画・IR室を経由して担当教員に科目単位で結果が通知された。

なお、同一科目を複数教員が担当した場合は、担当者単位で集計・通知を行い、コメントも依頼した。

① 科目開設時期による分析

2022年度のアンケートの東京成徳短期大学幼児教育科全体の科目開設（アンケート実施）時期による結果（平均値）は、下表のとおりである。

なお、参考として（ ）内には2021年度の平均値を示す。

	質 問 内 容	前 期	後期(通年科目を含む)
問1	授業目的の理解	4.55 (4.59)	4.58 (4.62)
問2	授業姿勢	4.52 (4.57)	4.56 (4.60)
問3	授業内容の理解	4.42 (4.41)	4.46 (4.47)
問4	修得・向上できたもの(教育目標、カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーに対する回答)	次の表のとおり	
問5・6	自由記述	各科目で集約	
問7	学修成果	4.50 (4.46)	4.53 (4.54)
問8	選択・自由設定質問	各科目で集約	

問1「授業目的の理解」では、高値を示し、授業目的の理解は達成できていると考えられる。

問2「授業姿勢」についても、同様に高値を示し、学生は授業に真剣に取り組んだと評価できる。

問3「授業内容の理解」についても、前年度と同程度であり、高い評価と考えられる。

問4「修得・向上できたと思われるもの(教育目標及びカリキュラムポリシー・ディプロマポリシーに対する回答)」の結果は以下のとおりであった。

修得・向上できたもの	前期	後期(通年科目を含む)
ア：教養・美しい心	38.0%	42.7%
イ：専門的知識・技能	71.4%	73.9%
ウ：研究意欲	23.4%	25.0%
エ：保育や子どもに関わる実践力・即応力	59.5%	57.0%
オ：保育者に求められるコミュニケーション能力	42.4%	44.6%
カ：学びを深めるための協同的課題解決能力	30.0%	32.9%
キ：社会的な責任感や倫理観	31.8%	30.6%
ク：目的に向かう意欲・行動力	30.4%	28.0%

この数値は、分子をア～クそれぞれの選択回答数、分母を全回答者数として得られたものである。ア～クは、すべて教育目標・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーから抽出された本学幼児教育科の柱となる項目である。学生には学習目標ア～クの中から複数選択を求めた。

「専門的知識・技能」については、前期 71.4%、後期 73.9%と他項目と比較し高い値を示した。よって、多くの学生が専門知識・技術の修得を実感していると考えられる。

次いで「保育や子どもに関わる実践力・即応力」についても、高値を示した。

問5・6は、記述回答とした。

問5は、「授業(オンラインを含む)・資料・対応などで良かった点」、問6は、「授業(オンラインを含む)・資料・対応などで改善してほしい点」とした。各授業に対する具体的な学生の記述回答を報告し、今後の授業改善に活用できるよう各授業担当者へ報告した。各教員のアンケート結果のコメント、授業改善を参照していただきたい。

問7「この授業を履修して、幼児教育科の専門分野での考え方や知識、技能が身につきましたか(学修成果)」は、この授業アンケートで最も重視したい項目である。問7については、前期は、4.50(前年度:4.46)、後期は、4.53(前年度:4.54)であった。

問 8 は、設定質問とした。各授業担当者が自身の授業効果として確認したい項目を独自の視点から設定していく質問であり、各教員の授業に込めた理念が現れる部分である。担当者が授業を通して何を最も伝え、授業を受けた学生に評価して欲しいと考えているのか、教授ポリシーが現れる部分でもある。問 8 の具体的内容は、教員コメントの中でその結果と活用を参照いただきたい。

学修成果を学生自身がどのように感じているかは、授業評価を通して教育開発研究を行う上で、最も大切なポイントであると考え。本学の「授業アンケート ーより良い授業を目指してー」は、こうした視点から、学修成果を高めるために工夫を重ねてきた成果である。

結果の集計に際して、問 7 の学修成果が特に高い(5) グループ、高い(4)グループ、学修成果が比較的低い(3・2・1) のグループに分けて、問 1・2・3・8 の得点をクロス集計して示した。実効性に関しては、各教員のコメントを参照いただきたい。

② 科目種別による分析

2022 年度 授業アンケートーより良い授業を目指して、では必修科目、卒業必修科目、選択科目について集計した。

必修科目の履修者数は、523 名、回答者は 339 名で、回答率は 64.8%であった。

卒業選択必修科目の履修者は、696 名、回答者は、358 名で、回答率は 51.4%であった。

選択科目の履修者数は、4,552 名、回答者 2,612 名で、回答率は 57.3%であった。

アンケート結果は、下表のとおりであった。

なお、()は 2021 年度の平均値を示す。

	質問内容	必修科目	卒業選択必修科目	選択科目
問 1	授業目的の理解	4.58 (4.60)	4.56 (4.62)	4.56 (4.61)
問 2	授業姿勢	4.54 (4.60)	4.50 (4.63)	4.54 (4.58)
問 3	授業内容の理解	4.52 (4.46)	4.42 (4.48)	4.43 (4.43)
問 4	修得・向上できたもの (教育目標、カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーに対する回答)	次表のとおり		
問 5・6	自由記述	各科目で集約		
問 7	学修成果	4.53 (4.51)	4.44 (4.46)	4.52 (4.50)
問 8	設定質問なし			

問 1 から問 7 の全般にわたり、平均値は、高値を示した。

幼児教育科の学生のほとんどが保育者を目指しており、どの授業も大事な科目として取り組んでいることと考えられる。

問4「修得・向上できたと思われるもの(教育目標及びカリキュラムポリシー・ディプロマポリシーに対する回答)」に関する結果は、以下のとおりであった。

修得・向上できたもの	必修科目	卒業選択必修科目	選択科目
ア：教養・美しい心	42.2%	28.2%	41.3%
イ：専門的知識・技能	67.8%	73.3%	72.9%
ウ：研究意欲	44.5%	17.3%	22.4%
エ：保育や子どもに関わる 実践力・即応力	51.3%	31.8%	63.0%
オ：保育者に求められるコミュニ ケーション能力	36.9%	24.9%	46.7%
カ：学びを深めるための協同的 課題解決能力	36.6%	21.2%	31.9%
キ：社会的な責任感や倫理観	26.0%	22.1%	33.2%
ク：目的に向かう意欲・行動力	32.2%	25.1%	29.6%

アの「教養・美しい心」とキの「社会的な責任感や倫理観」の数値は、必修科目において高い値を示している。必修科目は「豊かな人間性と社会性を育てる」科目で、科目種別設定の企図と結果との間に整合性が認められると考えられる。

イの「専門的知識・技能」は必修科目 67.8%、卒業選択必修科目 73.3%、選択科目 72.9% であり、他の選択項目と比較し高い値を示した。よって、多くの学生が専門的知識・技能の修得を実感していると考えられる。特に選択科目に関して数値が高いことは、「保育の実践力と即応力を育てる」「確かな専門的知識と研究意欲を育てる(資質の高い専門家を養成するカリキュラム)」という科目種別設定の企図との間に整合性が認められると考える。

ウの「研究意欲」については、特に必修科目において高い数値が認められた。このことは、卒業必修科目とされる6科目の中に「課題研究A」「課題研究B」という研究実施とその成果発表・報告を重視する2つの科目が含まれ、それが卒業必修科目全体の3の1にあたることによると考えられる。

エの「保育や子どもに関わる実践力・即応力」、オの「保育者に求められるコミュニケーション能力」は科目種別設定の企図どおり、選択科目において最大値を示した。

カの「学びを深めるための協同的課題解決能力」は科目種別設定の企図どおり必修科目と卒業選択科目において高値を示した。

クの「目的に向かう意欲・行動力」はすべての科目が平均的な値を示した。

このように、学生が実感している学びの成果は、概ね、本学が企図した科目種別の特性と合致している。

なお、問5・6・8については、該当する科目の各教員のアンケート結果に対するコメント及び授業改善を参照していただきたい。

おわりに

新型コロナ感染症拡大によって、学校教育は様々な変革を迫られました。中でも対面授業から遠隔授業への転換は大きな変化でした。2022年度においてもその影響は残り、本学でも対面授業と遠隔授業とのハイブリット方式から後期には全授業を対面で実施するように方針転換をしました。

この間、PCやスマホを活用して遠隔授業を受講する力を身に付けてきた学生たちですが、いざ対面授業を実施すると、高校時代から遠ざかっていた対面でのコミュニケーションに戸惑いを覚える姿も見られました。そうした点からも、様々な苦労を経ながら学習を重ねているものと推察されます。

本学が、平成20年からFD委員会を中心に実施してきている「学生による授業評価アンケート」は、「学生との授業座談会」と併せ、授業についての学生の声を聞き取り、教員がそれに応じてよりよい授業にしていこうという授業改善への重要な取り組みです。教員が自らの専門知識や技能を学生に伝授することに惜しみない努力を重ねることは当然のことではありますが、学生が授業のねらいを的確に把握し、期待される学修成果を確実に身に付けているのかについて学生側からの意見を聞き取ることで、学生が主体的・能動的に取り組める授業を展開し、教員と学生が協力してよりよい授業を創り上げていけるものと考えます。現在我が国の教育で求められている〈令和の日本型学校教育—全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現—〉を高等学校以降の教育においてもどう構築していくのか対応が求められています。そのためには、学修成果の査定を行い、それをもとに改善策を練って教育の質の向上を図るPDCAサイクルの実行を確実に積み重ねていくことがますます重要になっています。

アンケート結果を見ると、「授業目的の理解」「授業姿勢」「授業内容の理解」「学修成果」すべてにおいて5段階評価の4.5近くの評価が得られていることは、本学の授業が適格に実施されている証であると言えるでしょう。修得・向上できたものについてみると、「専門的知識・技能」について70%を越える回答があり、また「保育や子どもに関わる実践力・即応力」も60%近い高い値を示しています。保育者を目指して入学してきた学生の多くが専門知識・技能の修得を実感できていることは喜ばしいことであると考えます。

一方で、「学びを深めるための協同的課題解決能力」が30%程度であり、「社会的な責任感や倫理観」「目的に向かう意欲・行動力」も30%あるいはそれ以下という値です。教員からも「専門用語を教えてもそれを使って説明することができない」「授業スピードは早かった、ノートがとりきれないという自由記述が見られた」「復習と予習が不十分で、覚えた語彙量が少なく、文法事項も時間が経つと忘れてしまう」等の言葉が寄せられており、学んだことを咀嚼して自分の言葉で説明したり、一度覚えた知識や技能を頻繁に使って知識を定着させていたりすることが十分でない様子が伺われます。2年間という短い時間に多くの必修授業を受講しなければならず、学んだことを繰り返し実践したり実社会で試したりする機会が少ない学生たちの状況、そして、保育現場で必要とされる即効性のある知識・技能を伝えることに多くの時間を費やしがちであるカリキュラムの課題も鑑みながら、短期大学の宿命であるとも言える上記のことについて、今後対策を検討していくことが必要であると考えます。

学生の実態に即しつつ、協同的課題解決能力や、社会の変化を前向きに受けとめ柔軟に対応する感性を身に付けた保育者を養成していくために、私たち教員もさらに工夫を重ねた授

業展開が求められています。ディスカッションやグループワーク、ディベート等を効果的に取り入れ、アクティブ・ラーニングを実践して学びを深める姿勢を醸成することを、演習科目に限らず講義科目においても試行してまいりましょう。学生が学習の見通しをもち、自ら取り組み、振り返るという循環を確立し、継続して学ぶことで、本学が掲げているディプロマ・ポリシーを一人一人が実現できるように、今後も力を合わせて真摯に取り組んでいきたいと思ひます。

東京成徳短期大学 幼児教育科長 松本純子

索 引

安部 久美	50
池田 三鈴	19,62,63,78,101,120,130
石川 雅俊	108
磯部 知愛	27,59,72,85,96,132
糸山 昌己	107,135
岩久 由香	57,124,133
岩崎 朋枝	138
及川 夕美	53,110
大國 ゆきの	24,35,47,56,83,104,116,129
大澤 洋美	31,90,106,122,137
片貝 晴夫	48,51
金城 悟	70
郡司 敦	28,36,46,54,86,111,115
後藤 悌二	141
今野 浩子	40,121
鄒 敏俐	136
杉本 亜鈴	22,37,38,66,81,91,102,143
高橋 能樹	75
武井 大輔	41,43
田中 浩二	34
崔 美美	117
津久井 康明	25,76,89,103,127
土屋 朱帆	39
寺田 清美	20,74,79,97,125,131
中川 瑞葉	55,112
中山 恭一	42
馬場 康宏	26,64,84,99,114,118
福山 多江子	29,44,61,87,95,105
藤川 志つ子	140
藤村 秀子	67,123
星井 純子	68
堀内 秀雄	30,58,88,92,93
松本 純子	21,33,80,94
松本 紀子	18,77,100,134,139,142
宗形 奈津子	69,126
矢澤 由紀	109
横山 文樹	52,60,113,119
吉田 博行	23,49,65,71,82,98,128
渡邊 晶	32,45,73